

科目名	パネルシアターⅠ	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	虎谷 美香	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間		試験期間		授業 14～16 回目	
授業の目的		視聴覚教材であるパネルシアターを製作、実践することにより、視聴覚教材の一つであるパネルシアターについて学びを深める。			
授業の概要		パネルシアターの特性について知る。 製作や演じることを通し、保育の現場での活用の仕方を学ぶ。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第 1 回 授業説明 パネルシアターの理解 (成り立ち、種類、材料、保育現場での活用方法など) パネルシアター作品の紹介、作品選び 第 2 回 パネルシアター作成 (簡単パネル) ① 第 3 回 パネルシアター作成 (簡単パネル) ② 第 4 回 パネルシアター作成 (簡単パネル) ③ 第 5 回 パネルシアター作成 (簡単パネル) ④、 提出、作品選び 第 6 回 パネルシアター作成 (お話パネル) ① 第 7 回 パネルシアター作成 (お話パネル) ② 第 8 回 パネルシアター作成 (お話パネル) ③ 第 9 回 パネルシアター作成 (お話パネル) ④ 第 10 回 パネルシアター作成 (お話パネル) ⑤ 第 11 回 パネルシアター作成 (お話パネル) ⑥、提出 第 12 回 パネル版作成① (作り方の説明) 第 13 回 パネル版作成② 演じ方のポイント、練習 定期試験について 第 14 回 定期試験 (発表) 第 15 回 定期試験 (発表) 第 16 回 定期試験 (発表)、まとめ			
成績評価方法		出席状況・授業態度・作品の完成度 (絵人形、パネル版)・定期試験 (発表)			
テキスト		プリント配布			
持ち物		筆記用具、P ペーパー、ボンド、はさみ、黒マッキー、ポスカ ※その他は随時お知らせします			
履修上の 注意事項		・ 実習に向けての授業になる為、出席率と授業態度を重視する ・ 提出物は期限内に遅れの場合は減点、未提出の場合は不可とする			

科目名	ピアノⅠ	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 資格・免許	
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人的レッスンでピアノを使用して学び、基礎固めをする。				
授業の概要	個人レッスン				
授業の計画	第 1 回 オリエンテーション ピアノ演奏技術を確認				
	第 2 ～ 3 回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について学習し、演奏する				
授業の計画	第 4 ～ 5 回 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法に気をつけながら演奏する。				
	第 6 ～ 11 回. 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法、正確なリズム・速度・拍子を学習し、演奏する				
授業の計画	第 12 ～ 14 回. 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法、正確なリズム・速度・拍子などに気をつけながら演奏する。 試験曲の選曲をする。				
	第 15 回 試験曲を暗譜で演奏する。				
授業の計画	第 16 回. 試験				
成績評価方法	出席状況及び受講態度・実技試験（バイエル 60 番以上であれば通常評価、50～59 番であれば可、49 番以下の場合は評価をつけることができません）				
テキスト	・バイエルの教則本（こどものバイエルでもよい） ・進度の進んでいるものは各自のレベルの楽譜				
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと。 上靴を着用し、受講すること。 遅刻、長爪、マニキュア、指輪、教本忘れ、練習不足は欠席扱いとする。				

科目名	折紙Ⅰ	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	鈴木 一美	開講 時期	1年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	・四季折々の行事や祝い事・イベントなどを飾る、日本文化としての折り紙を学び、保育の現場に役立てる。				
授業の概要	・作品の折り図作成(折紙ファイルの作り方) ・作る・楽しむ・飾る・贈るなどの活用				
授業の計画	第1回 オリエンテーション①授業の進め方と評価方法の説明 ②作品の活用方法を学ぶ ③折りの約束事、基本を学ぶ ④折紙ファイルの作り方 ⑤基本形作成 第2回 カーネーション(花・葉・茎)、リボン 第3回 こいのぼり、かぶと、矢車 第4回 チューリップ(花・葉)、ちょうちょ 第5回 クローバー、白つめ草、てんとう虫 第6回 壁面を飾るフレーム作り(6角形・4角形) 第7回 あじさい(花・葉)、蛙 第8回 歯ブラシ、コップ、歯磨きチューブ 第9回 ワイシャツ、ネクタイ、メッセージカード 第10回 魚、イカ、タコ、海草、岩 第11回 いぬの手紙入れ、えんぴつの手紙入れ 第12回 スイカ、ソフトクリーム、麦わら帽子 第13回 花火(大・小)、ちょうちん、朝顔 第14回 野菜(大根・人参・きのこ・栗)、籠 第15回 ハロウィン(かぼちゃ・おばけ・ぼうし・ガイコツ) 第16回 試験				
成績評価方法	授業態度、出席状況、作品の折り図提出				
テキスト	なし				
持ち物	ボンド、のり、はさみ、カッター、折紙、ファイル、筆記用具				
履修上の 注意事項	・他の人に教える事が出来るように、分かりやすく細かく折り図を作る。 ・折り順や説明をしっかりと聞き、折り図に書き込む。 ・授業内に習った作品の折り図は授業時間内に仕上げて提出する。				

科目名	自分を知る心理学	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	岸 靖亮	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 資格・免許	
			前半		
レポート期間			試験期間	授業 8 回目	
授業の目的	保育現場は子どもだけでなく、大人である保育者自身や保護者全てが関わりを持つ。より良い保育実践に向け、それぞれの心の働きを捉える為に必要な基礎理論を習得する。				
授業の概要	心理学の基礎領域に触れながら、自身の精神活動の実態を学ぶ。何かに意識を向けることや、見る・聞く・話すといった日常的な心の仕組みから自己理解、ひいてはヒトそのものの心に目を向ける意識を身に着ける。				
授業の計画	第 1 回 オリエンテーション（心理学とは何か）				
	第 2 回 感覚・知覚・認知				
	第 3 回 注意機能				
	第 4 回 学習				
	第 5 回 記憶				
	第 6 回 人格				
	第 7 回 まとめ				
	第 8 回 試験				
成績評価方法	出席状況 受講態度 試験				
テキスト	無し（ノートを取り、自分で資料を作成する。必要であれば資料を配布する）				
持ち物	筆記用具 ノート				
履修上の 注意事項	授業には意欲的に取り組み、毎時間ノートをしっかり取る				

科目名	手芸の基礎	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	小川 睦美	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的		実習及び後期「手作りおもちゃ」の演習に向けて手芸の基礎を身につける。			
授業の概要		手芸の基礎を身につけるべく、各種縫い方、ボタンの付け方等を学ぶ。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第1回 オリエンテーション、材料配布、縫い方の基礎説明 第2回 名札デザイン・製作 第3回 名札製作 第4回 名札製作 第5回 名札製作・提出 第6回 ボタンの付け方、ボタン人形デザイン・製作 第7回 ボタン人形製作 第8回 ボタン人形製作・提出			
成績評価方法		提出物、出席状況、授業態度			
テキスト		プリント配布			
持ち物		筆記用具・裁縫道具・ハサミ（紙用・布用）・木工用ボンド・セロハンテープ			
履修上の 注意事項		提出期限厳守			

科目名	保育活動Ⅰ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	中谷 摩美	開講 時期	1 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			前半		
レポート期間			試験期間	授業 8 回目	
授業の目的	保育内容を理解し、こどもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。				
授業の概要	身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動を具体的な活動事例を体験しながら、知識や技術の習得を目指す。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第 1 回 授業説明と評価方法 「ともだちづくり」としての表現活動 第 2 回 集団あそび（鬼ごっこ） ハンカチあそび 第 3 回 年中行事の製作活動（こいのぼり製作） 第 4 回 伝承あそび・わらべうた 第 5 回 集団あそび（音楽に合わせた表現活動） 第 6 回 絵本・紙芝居 第 7 回 集団あそび（ジャンケンであそぼう） 第 8 回 発表試験（手遊び）				
成績評価方法	出席状況、授業態度および発表試験の総合評価				
テキスト	プリント（授業毎に配布）				
持ち物	A 4 ポケットファイル（ポケット数の多い物）・ジャージ・上靴、筆記用具				
履修上の 注意事項	・ 積極的な受講態度を評価します ・ 髪は束ね、アクセサリは不可です ・ 専門職としての技術習得科目となる為、出席状況も重視します				

科目名	幼児の音楽Ⅰ	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	村田 昌史	開講 時期	1 年前期・後半	必選区分・ 免許・資格	
			1 年後期・前半		
レポート期間		試験期間		授業 13～16 回目	
授業の目的		歌、器楽合奏など通じて幅広く幼児音楽を習得する目的			
授業の概要		幼児音楽で使用されるとする楽器、歌、それらの指導法などの授業概要			
授業の計画		<前期・後半> 第1回 基礎楽典 第2回 基礎楽典 第3回 ミュージックベルの合奏（説明、指導法など） 第4回 ミュージックベルの合奏（説明、指導法など） 第5回 ミュージックベルの合奏（説明、指導法など） 第6回 幼児対象の器楽合奏（ピアノ、タンバリン、鈴、木琴） 第7回 「こどものうた」から選曲した曲に、タンバリン・鈴・カスタネット などでリズム作成 第8回 発表会（授業内での発表） <後期・前半> 第1回～第4回 総合器楽合奏 歌 木琴、鉄琴、ピアノ タンバリン、鈴、カスタネット、トライアングルなど使用 2～3グループ分け 各グループで曲を選曲、楽器割り当て 選曲した曲にリズム作成（打楽器） 授業内での発表演奏会 第5回～第8回 少人数（4～5人グループ）でのピアノと打楽器（タンバリン、カスタネット） によるリズム遊び			
成績評価方法		実技・筆記評価、授業態度、出席率			
テキスト		こどものうた200、続こどものうた200			
持ち物		筆記用具(ホチキス・定規)、こどものうた200、続こどものうた200			
履修上の 注意事項		授業態度に注意すること 欠席しないこと			

科目名	あそび研究Ⅰ	単位	(6)	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	中谷 摩美	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	
			後半		
レポート期間		試験期間			
授業の目的		1年次より3年次までの3年間で、段階を経ながら経験を繰り返し、保育現場においての実践力を養う。また、専門知識・技術を実践の場で活かす力を培う。子ども理解を深め、広い視野を持って子どもを中心とした関わりをし、状況に合わせた行動をすることの出来る「即戦力」となる保育のプロフェッショナルを育てる。 ・これまでの学びやこども演習（保育所）での経験・身に付けたことを活かし、子どもが楽しめるあそび環境を企画・実践し、子どもとの関わる力を養う。			
授業の概要		・子どもたちが楽しめるあそび環境を、助言を受けながら企画・実践し、 「ほせんひろば」を開催する。 ・実際にコミュニケーションを図る中で、子どもや保護者との関わり方、関係のつくり方を学ぶ。 ・近隣地域の子育て家庭への貢献をする ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		① 事前学習 ・「ほせんひろば」開催の意義 ・「子育て支援」の理解 ・あそび環境づくりのポイント、注意点 ② 「ほせんひろば」準備 ・場所に合わせたあそび環境、内容の立案 ・廃材等を利用した遊具づくり ・保育発表練習 ・会場設営、環境整備 ③ 「ほせんひろば」開催 ④ 振り返り・まとめ ・感想・反省・自己評価 ・あそび研究Ⅱに向けて（自己目標の設定・課題への取り組み）			
成績評価方法		出席状況・受講態度・提出物等を総合的に評価する			
テキスト		プリント配布			
持ち物		道具セット一式、筆記用具（その他は、随時お知らせします）			
履修上の 注意事項		・保育者を目指す者としての自覚を持ち、積極的に参加すること。 ・相応しい服装・身だしなみ・立ち居振る舞い（明るい笑顔・挨拶・言葉遣い）の徹底をすること。 ・他人任せにせず、一人ひとりが役割を理解し、責任を持って行動すること。			

科目名	こどものこころ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	岸 靖亮	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	こども心理 あそびマスターコース
			後半		
レポート期間			試験期間	授業8回目	
授業の目的	「子どもの心に寄り添う」には心理学を学ぶだけでなく、理論と実践を結びつけた理解が不可欠である。様々な精神活動の基礎理論が、実態としてどのような保育場面に現れるのかを理解する。				
授業の概要	保育現場の様々な事例を通して、そこに発生する子どもの心の変化、保育者の思考について学ぶ。特に、同じ状況でも発達に応じて精神活動が大きく異なる子どもに焦点を当て、心理学を活かした実践的な心の分析方法を学習する。				
授業の計画	第1回 子どもを取り巻く保育環境				
	第2回 幼児期の知覚的特徴から見る教材の意味				
	第3回 子どもの会話形式の変化				
	第4回 保育現場におけるソーシャルスキル				
	第5回 子どもの道德意識				
	第6回 子どもの「個性」について考える				
	第7回 まとめ				
	第8回 試験				
成績評価方法	出席状況 受講態度 試験				
テキスト	無し（ノートを取り、自分で資料を作成する。必要であれば資料を配布する）				
持ち物	筆記用具 ノート				
履修上の 注意事項	授業には意欲的に取り組み、毎時間ノートをしっかり取る				

科目名	こども演習Ⅰ（保育所）	単位	（３）	学科	こども未来学科
		時間	４５	授業形態	演習
担当教員	中谷 摩美	開講 時期	１年後期	必選区分・ 資格・免許	幼稚園１種チャレンジコース 保育公務員コース
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	１年次より３年次までの３年間で、段階を経ながら保育現場での経験を繰り返し、保育現場 においての実践力を養う。また、専門知識・技術を実践の場で活かす力を培う。子ども理解 を深め、広い視野を持って子どもを中心とした関わりをし、状況に合わせた行動をすること の出来る「即戦力」となる保育のプロフェッショナルを育てる。 ・保育施設での子どもとの関わりを通して、保育施設の機能・概要及び保育士の職務内容に ついて理解を深める。 ・実際に子どもと継続的に関わり関係を持つことで、スムーズに遊ぶことの出来る力を養う。 ・２年次の保育実習Ⅰ・Ⅱに向けて、保育者を目指す学生としての意識や学習意欲を高める。				
授業の概要	・事前学習を通して、保育所とは何かを学ぶ。 ・保育施設での生活を体験し、保育所への理解を深める。 ・一緒に遊んだり、会話をすることを通して、子どもと関わる力を養う。 ・実際に子どもの前に立ち、保育士としての経験を通して、実践力を試す。 ・２年次の保育実習Ⅰ・Ⅱに向けて、客観的な視点で自己課題や目標を見つけ、実習事前準 備に活かす。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	【保育所見学】 ① 事前学習～保育所とは、保育所の１日の生活の流れ、子どもの様子、 訪問保育所の概要、訪問時の注意事項、活動起案・準備 ② 保育所見学～保育所での関わりを通してのこども理解、保育士の仕事内 容の理解、実際に子どもと関わる(会話・遊び)、活動実践 (手遊び、パネルシアター、ペープサートなど) ③ 振り返り～学び・反省・感想、自己課題・目標の設定 第１週 オリエンテーション 第２週 訪問実習準備 第３週～１３週目 ＜訪問実習＞ １・２・３回目～観察・参加実習、４回目～参加・部分実習 ＜振り返り・実習準備＞ 各回ごとの振り返り（感想・反省・自己評価） 次回実習にむけて（自己目標の設定・課題への取り組み・部分実習準備） 第１４・１５・１６週目 まとめ				
成績評価方法	出席状況・受講態度・提出物等を総合的に評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	２穴リングファイル（Ａ４サイズ）、筆記用具（その他は、随時お知らせします）				
履修上の 注意事項	・保育者を目指す者としての自覚を持ち、積極的に参加すること。 ・学ばせて頂いているという姿勢を大切にし、意欲的に臨むこと。 ・保育所訪問に相応しい服装・身だしなみ・立ち居振る舞い（明るい笑顔・挨拶・ 言葉遣い）の徹底をすること。				

科目名	こども演習Ⅱ（保育所）	単位	（６）	学科	こども未来学科
		時間	９０	授業形態	演習
担当教員	中谷 摩美	開講 時期	１年後期	必選区分・ 資格・免許	こども心理・あそび マスターコース
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	１年次より３年次までの３年間で、段階を経ながら保育現場での経験を繰り返し、保育現場においての実践力を養う。また、専門知識・技術を実践の場で活かす力を培う。子ども理解を深め、広い視野を持って子どもを中心とした関わりをし、状況に合わせた行動をすることの出来る「即戦力」となる保育のプロフェッショナルを育てる。 ・保育施設での子どもとの関わりを通して、保育施設の機能・概要及び保育士の職務内容について理解を深める。 ・実際に子どもと継続的に関わり関係を持つことで、スムーズに遊ぶことの出来る力を養う。 ・２年次の保育実習Ⅰ・Ⅱに向けて、保育者を目指す学生としての意識や学習意欲を高める。				
授業の概要	・事前学習を通して、保育所とは何かを学ぶ。 ・保育施設での生活を体験し、保育所への理解を深める。 ・一緒に遊んだり、会話をすることを通して、子どもと関わる力を養う。 ・実際に子どもの前に立ち、保育士としての経験を通して、実践力を試す。 ・２年次の保育実習Ⅰ・Ⅱに向けて、客観的な視点で自己課題や目標を見つけ、実習事前準備に活かす。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	【保育所見学】 ① 事前学習～保育所とは、保育所の１日の生活の流れ、子どもの様子、 訪問保育所の概要、訪問時の注意事項、活動起案・準備 ② 保育所見学～保育所での関わりを通してのこども理解、保育士の仕事内 容の理解、実際に子どもと関わる(会話・遊び)、活動実践 (手遊び、パネルシアター、ペープサートなど) ③ 振り返り～学び・反省・感想、自己課題・目標の設定 第１週 オリエンテーション 第２週 訪問実習準備 第３週～１３週目 <訪問実習> 観察・参加実習（９回）、参加・部分実習（３回） <振り返り・実習準備> 各回ごとの振り返り（感想・反省・自己評価） 次回実習にむけて（自己目標の設定・課題への取り組み・部分実習準備） 第１４・１５・１６週目 まとめ				
成績評価方法	出席状況・受講態度・提出物等を総合的に評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	２穴リングファイル（Ａ４サイズ）、筆記用具（その他は、随時お知らせします）				
履修上の 注意事項	・保育者を目指す者としての自覚を持ち、積極的に参加すること。 ・学ばせて頂いているという姿勢を大切にし、意欲的に臨むこと。 ・保育所訪問に相応しい服装・身だしなみ・立ち居振る舞い（明るい笑顔・挨拶・言葉遣い）の徹底をすること。				

科目名	ピアノⅡ	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	1年後期	必選区分・ 資格・免許	
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人的レッスンでピアノを使用して学び、基礎固めをする。 初心者はバイエル修了を目指す				
授業の概要	個人レッスン				
授業の計画	1. オリエンテーション ピアノ演奏技術を確認 2.3. 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について学習し、演奏する 4.5. 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法に気をつけながら演奏する。 6～11. 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法、正確なリズム・速度・拍子を学習し、演奏する 12～14. 読譜力の向上をめざし、音階・和音・運指について レガート・スタッカート奏法、正確なリズム・速度・拍子などに気をつけながら演奏する。 試験曲の選曲をする。 15. 試験曲を暗譜で演奏する。 16. 試験				
成績評価方法	出席状況及び受講態度・実技試験（バイエル 90 番以上で通常評価、81～89 可、～80 は評価をつけることができません）				
テキスト	・バイエルの教則本（こどものバイエルでもよい） ・進度の進んでいるものは各自のレベルの楽譜				
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	事前によく練習をしておくこと				

科目名	ペン字	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	書峰社書道	開講 時期	1 年後期	必選区分・ 免許・資格	
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	身上書の作成				
授業の概要	ひらがな、カタカナの正しい字形を会得し、実習に向けての身上書の完成を目指す				
授業の計画	第1回 ひらかな 第2回 カタカナ 第3回 横書（短文） 第4回 身上書 第5回 身上書 第6回 身上書 第7回 横書（長文） 第8回 身上書仕上げ				
成績評価方法	出席率・授業態度・提出物等総合的に評価する				
テキスト	プリント				
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	授業態度に注意すること 欠席しないこと				

科目名	手作りおもちゃ	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	小枝 玲子	開講 時期	1年後期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間		試験期間			
授業の目的		実習に向けての下準備 現場での最低限の布の扱い方や縫い方を学ぶ			
授業の概要		手作りの大切さ暖かさを学習する 実習中に子ども達の喜ぶ顔を思い浮かべ自分も楽しめる作品作り			
授業の計画		第1回 絵合わせパズル (パズル遊び) 第2回 絵合わせパズル 第3回 絵合わせパズル 第4回 絵合わせパズル 第5回 パクパク人形 (くつ下で口をパクパク) 第6回 パクパク人形 第7回 パクパク人形 第8回 トコトコ人形 (足がトコトコ動く人形) 第9回 トコトコ人形 第10回 トコトコ人形 第11回 トコトコ人形 第12回 軍手シアター (軍手の手の平でお話する) 第13回 軍手シアター 第14回 軍手シアター 第15回 軍手シアター 第16回 軍手シアター (発表)			
成績評価方法		提出物・出席日数・授業態度			
テキスト		プリント配布			
持ち物		裁縫道具・筆記用具・木工用ボンド			
履修上の 注意事項		提出期限厳守			

科目名	指導計画Ⅰ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	虎谷 美香	開講 時期	1 年後期	必選区分・ 資格・免許	
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	各年齢の発達に沿った保育内容の理解を深め、立案の方法を学ぶ。				
授業の概要	保育実習に向けて保育の指導計画の基本を学び、立案の方法を理解する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第 1 回 指導計画Ⅰの授業内容、評価等について、指導案とは何か 指導案の記入の仕方、指導案の説明 第 2 回 0 歳児後半ビデオ学習、0 歳児指導案作成 第 3 回 1 歳児ビデオ学習、1 歳児指導案作成 第 4 回 ねらいについて、漢字テスト、2 歳児ビデオ学習 第 5 回 2 歳児遊び実践、2 歳児指導案作成 第 6 回 3 歳児ビデオ学習、小麦粉粘土遊び実践 第 7 回 3 歳児指導案作成 第 8 回 3 歳児指導案作成、清書について まとめ				
成績評価方法	出席率・提出物（指導案、ファイル）・発表・授業態度				
テキスト	実習の記録と指導案 田中亨胤・山本淳子 ひかりのくに				
持ち物	辞書・A4 ファイル（1、2 年生共通、袋型又は 2 つ穴）・テキスト				
履修上の 注意事項	提出物は期限厳守。遅れた場合は減点、未提出は不可とする。 実習に向けての授業になる為、出席率と授業態度を重視する。				

科目名	日誌指導Ⅰ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	加福 圭子	開講 時期	1年後期	必選区分・ 免許・資格	
			前半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	保育所実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を学ぶ。 実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について学ぶ。				
授業の概要	・ 保育所のデイリープログラムを知り、日誌の意義や記入の留意点を学ぶ。 ・ 実際に模擬日誌を作成し、演習を通して理解を深める。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション 保育実習について 第2回 保育所のデイリープログラムを知る 実習日誌の意義、記入のポイント 言葉遣いや留意点を学び、適切な記入の方法を知る 第3回 配布資料を元に模擬日誌の記入① 第4回 模擬日誌の記入② 本日の実習目標の立て方 第5回 「反省及び考察」の記入の仕方 記入の注意点 第6回 模擬日誌の記入① 第7回 模擬日誌の記入② 第8回 保育実習簿の確認、各書式の記入説明				
成績評価方法	出席状況及び課題（模擬日誌）提出				
テキスト	プリント配布				
持ち物	辞書(電子辞書も可)・A4ファイル(ポケットタイプ)・定規				
履修上の 注意事項	実習準備科目の為、全出席を望みます。プリント配布や提出物がありますので、欠席した場合は担当教員まで確認に来ること。				

科目名	あそび研究Ⅱ	単位	(6)	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	鈴木 楓	開講 時期	2年前期	必選区分・ 資格・免許	
			後半		
レポート期間		試験期間			
授業の目的		1年次より3年次までの3年間で、段階を経ながら経験を繰り返し、保育現場においての実践力を養う。また、専門知識・技術を実践の場で活かす力を培う。子ども理解を深め、広い視野を持って子どもを中心とした関わりをし、状況に合わせた行動をすることの出来る「即戦力」となる保育のプロフェッショナルを育てる。 ・これまでの学びや保育実習、こども演習、あそび研究Ⅰでの経験・身に付けたことや反省点等を活かし、子どもが楽しめるあそび環境を企画・実践し、子どもとの関わる力を養う。			
授業の概要		・子どもたちが楽しめるあそび環境を、助言を受けながら企画・実践し、「ほせんひろば」を開催する。 ・実際にコミュニケーションを図る中で、子どもや保護者との関わり方、関係のつくり方を学ぶ。 ・近隣地域の子育て家庭への貢献をする。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		① 事前学習 ・「ほせんひろば」開催の意義、「子育て支援」の理解 ・1年次「ほせんひろば」の振り返り ② 「ほせんひろば」準備 ・1年次の「ほせんひろば」の反省を活かし、場所に合わせたあそび環境・内容の立案 ・触れ合い遊びの内容の立案・練習 ・廃材等を利用した遊具づくり ・保育発表練習 ・会場設営、環境整備 ③ 「ほせんひろば」開催 ④ 振り返り・まとめ ・感想・反省・自己評価 ・あそび研究Ⅲに向けて（自己目標の設定・課題への取り組み）			
成績評価方法		出席状況・受講態度・提出物等を総合的に評価する			
テキスト		プリント配布			
持ち物		道具セット一式、筆記用具（その他は、随時お知らせします）			
履修上の 注意事項		・保育者を目指す者としての自覚を持ち、積極的に参加すること。 ・相応しい服装・身だしなみ・立ち居振る舞い（明るい笑顔・挨拶・言葉遣い）の徹底をすること。 ・他人任せにせず、一人ひとりが役割を理解し、責任を持って行動すること。			

科目名	こども演習Ⅰ（幼稚園）	単位	3	学科	こども未来学科
		時間	10	授業形態	演習
担当教員	鈴木 楓	開講 時期	2年前期	必選区分・ 資格・免許	幼稚園1種チャレンジコース
			後半		保育公務員コース
レポート期間		試験期間			
授業の目的		1年次より3年次までの3年間で、段階を経ながら保育現場での経験を繰り返し、保育現場においての実践力を養う。また、専門知識・技術を実践の場で活かす力を培う。子ども理解を深め、広い視野を持って子どもを中心とした関わりをし、状況に合わせた行動をすることの出来る「即戦力」となる保育のプロフェッショナルを育てる。 ・幼稚園での保育者の姿や子どもとの関わりを通して、幼稚園の機能・概要及び幼稚園教諭の職務内容について理解を深める。 ・3年次の教育実習に向けて、保育者を目指す学生としての意識や学習意欲を高める。			
授業の概要		・事前学習を通して、幼稚園とは何かを学ぶ。 ・幼稚園の生活を体験し、幼稚園への理解を深める。 ・一緒に遊んだり、会話をすることを通して、子どもと関わる力を養う。 ・実際に子どもの前に立ち、保育者としての経験を通して、実践力を試す。 ・3年次の教育実習に向けて、客観的な視点で自己課題や目標を見つけ、実習事前準備に活かす。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		① 幼稚園見学事前学習～幼稚園とは、幼稚園の1日の生活の流れ、子どもの様子、訪問先幼稚園の概要、訪問時の注意事項、活動起案・準備 ② 幼稚園見学～幼稚園での関わりを通してのこども理解、幼稚園教諭の仕事内容の理解、実際に子どもと関わる(会話・遊び)、活動実践(手遊び、パネルシアター、ペープサートなど) ③ 振り返り～学び・反省・感想、自己課題・目標の設定 3年次の教育実習に向けて			
成績評価方法		出席状況・受講態度・提出物等を総合的に評価する			
テキスト		プリント配布			
持ち物		1年次こども演習Ⅰ（保育所）で使用したファイル、筆記用具（その他は、随時お知らせします）			
履修上の 注意事項		・保育者を目指す者としての自覚を持ち、積極的に参加すること。 ・学ばせて頂いているという姿勢を大切に、意欲的に臨むこと。 ・幼稚園見学到に相応しい服装・身だしなみ・立ち居振る舞い（明るい笑顔・挨拶・言葉遣い）の徹底をすること。			

科目名	こども演習Ⅱ(幼稚園)	単位	6	学科	こども未来学科
		時間	10	授業形態	演習
担当教員	鈴木 楓	開講 時期	2年前期	必選区分・ 資格・免許	あそびマスター コース
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	1年次より3年次までの3年間で、段階を経ながら保育現場での経験を繰り返し、保育現場においての実践力を養う。また、専門知識・技術を実践の場で活かす力を培う。子ども理解を深め、広い視野を持って子どもを中心とした関わりをし、状況に合わせた行動をすることの出来る「即戦力」となる保育のプロフェッショナルを育てる。 ・幼稚園での保育者の姿や子どもとの関わりを通して、幼稚園の機能・概要及び幼稚園教諭の職務内容について理解を深める。 ・3年次の教育実習に向けて、保育者を目指す学生としての意識や学習意欲を高める。				
授業の概要	・事前学習を通して、幼稚園とは何かを学ぶ。 ・幼稚園の生活を体験し、幼稚園への理解を深める。 ・一緒に遊んだり、会話をすることを通して、子どもと関わる力を養う。 ・実際に子どもの前に立ち、保育者としての経験を通して、実践力を試す。 ・3年次の教育実習に向けて、客観的な視点で自己課題や目標を見つけ、実習事前準備に活かす。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	① 幼稚園見学事前学習～幼稚園とは、幼稚園の1日の生活の流れ、子どもの様子、訪問先幼稚園の概要、訪問時の注意事項、活動起案・準備 ② 幼稚園見学～幼稚園での関わりを通してのこども理解、幼稚園教諭の仕事内容の理解、実際に子どもと関わる(会話・遊び)、活動実践(手遊び、パネルシアター、ペープサートなど) ③ 振り返り～学び・反省・感想、自己課題・目標の設定 3年次の教育実習に向けて				
成績評価方法	出席状況・受講態度・提出物等を総合的に評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	1年次こども演習Ⅱ（保育所）で使用したファイル、筆記用具（その他は、随時お知らせします）				
履修上の 注意事項	・保育者を目指す者としての自覚を持ち、積極的に参加すること。 ・学ばせて頂いているという姿勢を大切にし、意欲的に臨むこと。 ・幼稚園見学に相応しい服装・身だしなみ・立ち居振る舞い（明るい笑顔・挨拶・言葉遣い）の徹底をすること。				

科目名	指導計画Ⅱ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	菊池 美奈 加福 圭子	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	各年齢の発達に沿った保育内容の理解を深め、自ら立案する力を身に付ける。				
授業の概要	保育所実習に向けて保育の指導計画の応用を学び、指導計画Ⅰの授業を基盤として立案する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 指導計画Ⅱの授業内容、評価等について 指導計画Ⅰの復習、清書の仕方について 第2回 部分実習を自分で考え、指導案を作成 第3回 部分実習を自分で考え、指導案を作成 第4回 異年齢保育について 第5回 異年齢保育の指導案を作成 第6回 完全実習指導案について 第7回 完全実習指導案について 反省と評価の記入の仕方 第8回 指導案の復習と確認、まとめ				
成績評価方法	出席率・提出物・授業態度				
テキスト	随時資料プリント・指導案用紙を配布します。				
持ち物	辞書（電子辞書可/携帯不可）・A4 ファイル・定規・修正テープ又は修正液				
履修上の 注意事項	提出物は、遅れの場合は減点、未提出は不可とする。 実習に向けての授業になる為、出席率と授業態度を重視する。				

科目名	こどものうたⅠ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	保育者として最も必要とされる弾きうたいの技術・技能を習得する。				
授業の概要	「あいさつ」曲からレッスン（おはよう）（おべんとう）（おかえりのうた）。 学生のピアノ進度に沿った弾きうたいを行い、保育園実習に備える。				
授業の計画	第1回	進度に沿った課題曲（発声法－姿勢・呼吸法） 挨拶のうた（おはよう・おべんとう・おかえりのうた）			
	第2回	課題曲（読譜力・リズムの練習・発声法）			
	第3回	課題曲（歌詞に合った歌い方・フレーズに合った息つぎ、歌と伴奏のバランス）			
	第4回	課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌）			
	第5回	試験曲の決定 課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌）			
	第6回	試験曲・課題曲（歌と伴奏のバランス・テンポ・実習に必要な歌）			
	第7回	試験曲（仕上げ）・課題曲			
	第8回	試験 ※必ず前奏を入れる ※2番まで歌う（1番のみの曲は繰り返す）			
成績評価方法	出席状況及び受講態度・実技試験（挨拶のうた「おはようのうた」「おべんとうのうた」「おかえりのうた」3曲を終了し、「こどものうた200」より選曲する）				
テキスト	こどものうた200				
持ち物	教本・こどものうたカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと。 上靴を着用し、受講すること。 遅刻、長爪、マニキュア、指輪、教本忘れ、練習不足は欠席扱いとする。				

科目名	ピアノⅢ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	器楽Ⅰ・Ⅱを基礎に、幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。 全員ブルグミュラー 2 5 の練習曲の教本終了を目指す。				
授業の概要	学生の進度に適した課題曲を選び、曲の表現や演奏法を学ぶ。				
授業の計画	・ 各自のレベルにあった選曲をする ・ 音符・休符・発想記号を正確に演奏する。 ・ 曲想・発想記号に適した演奏をする （曲の理解と表現力を高めるために、発想記号などの下調べをしっかりとしておくこと） ・ 各種演奏法の習得をする。 ・ 表題のついた曲（ブルグミュラー）で速度・調・拍子などそれぞれの特徴を習得する。 ・ 試験の前週の授業には試験曲を暗譜する。 ・ 最終週 試験				
成績評価方法	出席状況及び受講態度・実技試験（ブルグミュラー25 の練習曲以上を試験曲とする）				
テキスト	進度に適した教本（ブルグミュラー 2 5 の練習曲以上）				
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと。 上靴を着用し、受講すること。 遅刻、長爪、マニキュア、指輪、教本忘れ、練習不足は欠席扱いとする。				

科目名	日誌指導Ⅱ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	鈴木 楓	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	保育所実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を学ぶ 実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について学ぶ				
授業の概要	V T R 視聴や配布資料を基に、模擬日誌に記録をする。 参加実習及び部分実習時の日誌の書き方について演習を通して学ぶ。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第 1 回 オリエンテーション、 各基礎項目の記入方法の確認				
	第 2 回 記録から実習日誌の記入を行う① 参加実習時の日誌の書き方				
	第 3 回 記録から実習日誌の記入を行う② 参加実習時の日誌の書き方				
	第 4 回 記録から実習日誌の記入を行う③ 参加実習時の日誌の書き方				
	第 5 回 具体的に日誌を記入するとは？ 部分実習時の日誌の書き方 反省・感想の記入の仕方				
	第 6 回 記録から実習日誌の記入を行う④				
	第 7 回 記録から実習日誌の記入を行う⑤				
	第 8 回 記録から実習日誌の記入を行う⑥ まとめ・振り返り				
	成績評価方法	出席状況及び課題（模擬日誌）提出			
テキスト	随時資料プリントを配布します				
持ち物	教科書・ラインマーカー・筆記用具・定規・辞書・A4 ファイル・印鑑				
履修上の 注意事項	実習準備科目の為、全出席を望みます。提出期限を厳守し、積極的な態度で 授業に臨むこと。				

科目名	保育活動Ⅱ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	鈴木 楓	開講 時期	2 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	年齢に合わせた遊びを学び、保育所実習に向けて、乳幼児とかかわる実践的な力を身に着ける。実習に向けての心構えを習得する。				
授業の概要	保育所実習に向け、実際に子ども達と遊ぶ技術や指導の仕方を身につけ、学ぶ。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第 1 回 オリエンテーション（授業の内容、評価について） 年齢に合わせた集団あそび 第 2 回 幼児向けの遊び① 実習時の自己紹介グッズ作成① 第 3 回 実習時の自己紹介グッズ作成② 第 4 回 部分実習時の集団あそび(4 歳児用) 第 5 回 部分実習時の集団あそび(5 歳児用) 第 6 回 異年齢の遊び(新聞紙あそび・じゃんけんの遊び) 第 7 回 部分実習時の集団あそびを考えよう(演習・実践) 最終試験① 第 8 回 部分実習時の集団あそびを考えよう(演習・実践) 最終試験②				
成績評価方法	出席率、授業態度、グループ演習、提出物				
テキスト	なし				
持ち物	筆記用具、A 4 ファイル（プリント配布となります）必要に応じて連絡します。				
履修上の 注意事項	上靴、ジャージ着用、ピアス等のアクセサリ禁止。髪はしっかり結ぶ。貴重品は自己管理。※実習に向けての授業の為、積極的な参加と授業態度（服装も含む）を特に重視します。改善が見られない学生は減点・不可とします。				

科目名	福祉支援演習	単位	4	学科	こども未来学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	鈴木 楓	開講 時期	2年後期	必選区分・ 資格・免許	
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	・児童養護施設・障がい者支援施設の見学や作業体験を通して、保育所以外の福祉施設について学び、理解を深める。 ・居住型福祉施設利用者への理解を深める。 ・支援を必要としている方とコミュニケーションを図り、関わる力を養う。 ・3年次の施設実習に向けての意識や学習意欲を高める。				
授業の概要	・福祉施設の概要を理解し、施設の機能を知る。 ・施設に入所する利用者の生活の様子や施設職員の職務内容を知り、利用者との関わり方を学ぶ。 ・作業余暇活動への参加を通して、一人ひとりに対応した支援方法を実践し、関わる力を養う。 ・3年次の施設実習に向けて、客観的な視点で自己課題や目標を見つけ、実習事前準備に活かす。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	【事前学習】 ・福祉施設の種類や機能の理解 ・訪問施設の概要、訪問時の注意事項 【福祉施設研修】 ・障がい者支援施設での就労、生活支援としての作業体験 ・児童養護施設の見学 ・振り返り～作業体験・見学の報告と具体的関わり方についてのまとめ 自己課題・目標の設定 【福祉施設ボランティア】 第1回 オリエンテーション、施設訪問準備 第2回・第3回 ＜施設訪問＞ ・発達支援センター・障がい者支援施設等での作業体験、利用者との関わり ＜振り返り＞ ・各回ごとの振り返り（感想・反省・自己評価） ・次回訪問に向けて（自己目標の設定・課題への取り組み） 第4回・第5回 まとめ				
成績評価方法	出席状況・受講態度・提出物等を総合的に評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	1年次こども演習（保育所）で使用したファイル、筆記用具（その他は、随時お知らせします）				
履修上の 注意事項	・保育者を目指す者としての自覚を持ち、積極的に参加すること。 ・学ばせて頂いているという姿勢を大切にし、意欲的に臨むこと。 ・施設訪問に相応しい服装・身だしなみ・立ち居振る舞い（明るい笑顔・挨拶・言葉遣い）の徹底をすること。				

科目名	カリキュラム立案Ⅰ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	宮ケ丁 絵美	開講 時期	2 年後期	必選区分・ 免許・資格	
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	カリキュラム立案の大切さを理解する。 幼稚園実習に向けて、立案の考え方と手順を学習する。				
授業の概要	幼稚園の教育内容とデイリープログラム、各年齢に適した活動内容を理解し、立案の考え方・手順を身に付け、年齢ごとの部分案を立案する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第 1 回 授業説明 幼稚園の様子・保育園と幼稚園の違い 実習生に適した活動内容				
	第 2 回 カリキュラムの構成について ねらいの立て方、指導案記入時の言葉遣いについて 導入について				
授業の計画	第 3 回 カリキュラムの書き方（製作案）①				
	第 5 回 カリキュラムの書き方（製作案）②				
	第 6 回 カリキュラム立案（製作案）①				
	第 7 回 カリキュラム立案（製作案）②				
	第 8 回 カリキュラム立案（製作案）③				
	振り返り・まとめ				
成績評価方法	出席状況・受講態度・提出物等、総合的に評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	A 4 ポケットファイル（ポケット数の多い物）・辞書・筆記用具				
履修上の 注意事項	意欲的に受講すること 提出物の未提出・提出遅れは認めない 配布されたプリントはファイルに入れて保管すること				

科目名	こどものうたⅡ	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	前期の授業を基礎に、保育者として最も必要とされる弾きうたいの技術・技能を習得する。				
授業の概要	学生のピアノ進度に沿った弾きうたいを行い、次年度の幼稚園実習に備える。				
授業の計画	第1回 進度に沿った課題曲（発声法－姿勢・呼吸法）				
	第2回 課題曲（読譜力・リズムの練習）				
	第3回 課題曲（付点のリズムの正確な演奏）				
	第4回 課題曲（独奏曲と伴奏の違い）				
	第5回 課題曲（歌と伴奏のバランス）				
	第6回 課題曲（主音三和音）				
	第7回 課題曲（単旋律に和音付け練習）				
	第8回 課題曲（歌詞をはっきりさせ声をしっかり出す）				
	第9回 課題曲（歌詞の内容に合った表現・フレーズに合った息つき）				
	第10回 課題曲（幼児のうたにふさわしいテンポでの演奏）				
	第11回 課題曲				
	第12回 課題曲				
	第13回 試験曲を決める・課題曲				
	第14回 試験曲・課題曲				
	第15回 試験曲・課題曲				
	第16回 試験				
	成績評価方法	出席状況及び授講態度・実技試験			
テキスト	こどものうた200・続こどもうた200				
持ち物	教本・こどものうたカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	遅刻、長爪、マニキュア、指輪、教本忘れ、練習不足は欠席扱いとする。 レッスン前後の挨拶の徹底。 事前に練習しておくこと。				

科目名	こどものこころの ケア	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	15	授業形態	演習
担当教員	岸 靖亮	開講 時期	2 年後期	必選区分・ 資格・免許	保・幼・必修
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	子どもは園の生活において、一緒に遊ぶことや遊具の貸し借り、ケンカなど様々な社会体験をする。この時、感情のコントロールが難しい子どもの実態を理解し、支える為の実践的な心理学の知識を習得する				
授業の概要	保育現場における社会的場面を想定し、子どもの心がどのように動くのかを発達心理学的な観点から外観する。また、子どもが日々の園生活を楽しむための具体的な環境作りについても考えていく。				
授業の計画	第 1 回 子どもにとっての保育園・幼稚園の姿				
	第 2 回 保育士のコミュニケーションスキル				
	第 3 回 子どもの会話能力と心の安定				
	第 4 回 遊びが楽しくなる仕組み				
	第 5 回 子どもの「やる気」をケアする				
	第 6 回 子どもの不適応行動への対処				
	第 7 回 まとめ				
	第 8 回 試験				
成績評価方法	出席状況 受講態度 試験				
テキスト	無し（ノートを取り、自分で資料を作成する。必要であれば資料を配布する）				
持ち物	筆記用具 ノート				
履修上の 注意事項	授業には意欲的に取り組み、毎時間ノートをしっかり取る				

科目名	ピアノⅣ	単位	2	学科	こども未来学科	
		時間	30	授業形態	演習	
担当教員	各担当講師	開講 時期	2年後期	必選区分・ 免許・資格		
			全			
レポート期間		試験期間	授業最終日			
授業の目的	器楽Ⅰ・Ⅱを基礎に、幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。 全員ブルグミュラー２５の練習曲の教本終了を目指す。					
授業の概要	学生の進度に適した課題曲を選び、曲の表現や演奏法を学ぶ。					
授業の計画	・ 各自のレベルにあった選曲をする ・ 音符・休符・発想記号を正確に演奏する。 ・ 曲想・発想記号に適した演奏をする （曲の理解と表現力を高めるために、発想記号などの下調べをしっかりとしておくこと） ・ 各種演奏法の習得をする。 ・ 表題のついた曲（ブルグミュラー）で速度・調・拍子などそれぞれの特徴を習得する。 ・ 試験の前週の授業には試験曲を暗譜する。 ・ 最終週 試験					
成績評価方法	出席状況及び受講態度・実技試験					
テキスト	ブルグミュラー２５の練習曲 各自のレベルに合った楽譜					
持ち物	教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ					
履修上の 注意事項	担当の講師に言われた事をカードに記入し確認してもらうこと。 カードに記入した事に留意し、次回授業に備えてしっかりと練習をしておくこと。					

科目名	折紙Ⅱ	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	鈴木 一美	開講 時期	2年後期 全	必選区分・ 免許・資格	
レポート期間			試験期間		
授業の目的	日本折紙協会：折紙講師資格取得を目指す。(後期前半)				
授業の概要	・テキストを見て、正しく折る。 ・テキスト作品作成、提出後は折紙ファイル作成授業(後期後半)				
授業の計画	第1回 テキスト作品 ・箱を作る ・折紙講師資格の説明 ・テキストの注意点、約束事を学ぶ。 第2回 テキスト作品 第3回 テキスト作品 第4回 テキスト作品 第5回 テキスト作品 第6回 テキスト作品 第7回 テキスト作品 第8回 テキスト作品 第9回 テキスト作品 第10回 オリエンテーション 第11回 折り図作成 第12回 折り図作成 第13回 折り図作成 第14回 折り図作成 第15回 折り図作成 第16回 折り図作成				
	正方基本形 風船基本形 ツル基本形 二そう船基本形 魚基本形 かんのん基本形 カブト基本形 鳳基本形、かえる基本形 折紙作品作成、折り図作成 折紙ファイルの作り方 後期後半の授業の進め方、説明 冬の作品作成 遊べる折紙作成 使える折紙作成				
成績評価方法	テキスト作品の出来上がり。作受講態度（私語はしない）・出席状況				
テキスト	日本折紙協会テキスト				
持ち物	テキスト、折紙、ファイル、ハサミ、カッター、のり、定規、筆記用具				
履修上の 注意事項	・テキストをよく見て正しくつくること・提出日は後期授業内に指定 <u>*事前の宿題があるので、準備して授業に臨むこと。</u>				

科目名	カリキュラム立案Ⅱ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	宮ケ丁 絵美	開講 時期	3年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間		試験期間			
授業の目的		カリキュラム立案の大切さを理解する。 幼稚園実習に向けて、立案の考え方と手順を学習する。			
授業の概要		幼稚園の教育内容とデイリープログラム、各年齢に適した活動内容を理解し、立案の考え方・手順を身に付け、部分案（設定保育）・1日案を立案する。 活動の展開に沿った保育者の援助を、適切な表現で記入する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第1回 オリエンテーション 実習生に適した活動内容 カリキュラムの書き方（ゲーム案）① 第2回 カリキュラムの書き方（ゲーム案）② 第3回 カリキュラムの書き方（ゲーム案）③ 第4回 カリキュラム立案（ゲーム案）① 第5回 カリキュラム立案（ゲーム案）② 第6回 カリキュラム立案（ゲーム案）③ 第7回 カリキュラムの書き方（1日案） 第8回 幼稚園実習に向けて（まとめ）			
成績評価方法		出席状況・受講態度・提出物等、総合的に評価する			
テキスト		プリント配布			
持ち物		A4ポケットファイル・辞書・筆記用具			
履修上の 注意事項		意欲的に授業に参加すること 提出物の未提出・提出遅れは認めない			

科目名	こどものうたⅢ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	3 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	こどものうたⅠ・Ⅱを基礎に、より高度な表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリーを拡大する。				
授業の概要	学生のピアノ進度に沿った弾きうたいを行い、幼稚園実習に備える。				
授業の計画	第 1 回 課題曲（歌と伴奏のバランス） 第 2 回 課題曲（前奏と歌が入ってからのテンポ） 第 3 回 課題曲（単旋律への和音付け） 第 4 回 課題曲（正確なリズム・速度・拍子での演奏） （グループ歌唱の伴奏 法習得） 第 5 回 課題曲（歌詞の音楽的表現・ブレス （幼児のうたにふさわしいテンポで表情豊かな演奏） 第 6 回 課題曲（歌詞の音楽的表現・ブレス （幼児のうたにふさわしいテンポで表情豊かな演奏） 第 7 回 課題曲（授業の総まとめ） 第 8 回 試験				
成績評価方法	出席状況及び授講態度・実技試験				
テキスト	こどものうた 200・続こどものうた 200				
持ち物	教本・こどものうたカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと。 上靴を着用し、受講すること。 遅刻、長爪、マニキュア、指輪、教本忘れ、練習不足は欠席扱いとする。				

科目名	ピアノⅤ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	3 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的		保育の場で必要な音楽を表現豊かに演奏する技術、能力をさらに高める。 全員、ソナチネ以上を目指す。			
授業の概要		・器楽Ⅱより高度な演奏技法の習得 ・幅の広い応用技術の習得 ・テクニックと音楽性の総合された演奏			
授業の計画		第1回 器楽Ⅱより、より高度な演奏技法の習得 第2回 幅の広い応用技術の習得 第3回 種々の記号、標語を理解しての演奏 第4回 テクニックと音楽性の総合された演奏 第5回 授業で学んだ事を活かし、表現豊かな演奏 第6回 授業で学んだ事を活かし、表現豊かな演奏 第7回 授業の総まとめ 第8回 試験			
成績評価方法		出席状況及び受講態度・実技試験（ブルグミュラー25 の練習曲以上を試験曲とする）			
テキスト		ソナチネ・各自のレベルの楽譜			
持ち物		教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ			
履修上の 注意事項		次回授業に備えてしっかりと事前に練習をしておくこと。 上靴を着用し、受講すること。 遅刻、長爪、マニキュア、指輪、教本忘れ、練習不足は欠席扱いとする。			

科目名	介護概論	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	末岡 陽子	開講 時期	3 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	介護について理解を深めると共に、実際に行う為に必要な知識を身につける。				
授業の概要	介護とは何かを総体的に理解し、人間が生活するとはどういう事かを学習する。				
授業の計画	第1回 介護とは、QOLとは、健康とは何か 第2回 自立と自立支援、受容、ノーマライゼーション 第3回 生命の安全、自己決定、マズローの5段階欲求 第4回 観察の技法と目的 第5回 コミュニケーションの技法、認知症とは 第6回 障害の概要（ICIDHとICF、医学モデルと社会モデル） 第7回 生活範囲の拡大（ADLとIADL） 介護者の健康管理 第8回 筆記試験				
成績評価方法	定期試験				
テキスト	プリント使用				
持ち物	ノート 筆記用具 プリント				
履修上の 注意事項	プリントの再配布はしません。 紛失に注意すること。				

科目名	施設実習論	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	講義
担当教員	後藤 祥貴	開講 時期	3 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間		試験期間			
授業の目的		施設実習に向けて具体的な疑問点や不安材料を軽減し、自信をもって実習に臨めるようにする。			
授業の概要		施設実習前から事後までの一連の流れにおいて、必要な準備と課題、目標の設定方法、記録の書き方等の要点を学ぶ。 ※この科目は、福祉施設で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第 1 回 福祉施設の理解 第 2 回 施設実習への準備と実習計画 第 3 回 施設実習の内容 第 4 回 実習記録の書き方 第 5 回 施設別の実習の内容（養護系入所施設） 第 6 回 施設別の実習の内容（障害系施設等） 第 7 回 各課題についてのまとめ 第 8 回 まとめ及び試験			
成績評価方法		出席状況・受講態度・小テスト・レポート			
テキスト		保育士養成課程 福祉施設実習ハンドブック （株）みらい			
持ち物					
履修上の 注意事項		授業態度に注意すること 欠席しないこと			

科目名	就職指導	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	若松 幹子	開講 時期	3 年前期・8コマ	必選区分・ 免許・資格	
			3 年後期・7コマ		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	就職活動に向けて試験対策を行い、知識と意識を高め志望先に就職することを目指す				
授業の概要	・就職活動に関わる、規則、方法などを理解する ・履歴書、志望動機の作成を通して、適性を知る。 ・専門職に対する認識と責任感を養う。				
授業の計画	<前期分> 第1回 就職規則、活動の流れを理解する。 第2回 性格検査、履歴書作成（印鑑、基本項目欄） 第3回 履歴書作成（印鑑、基本項目欄）自己PR 作成 第4回 履歴書及び自己PR 作成 第5回 履歴書完成（提出） 第6回 夏休み中の就職活動・対策について（公務員・実習先等） 第7回 活動計画の確認及び求人票の紹介、見方 第8回 面接試験について、実習先への活動について <後期分> 第9回 求人票の確認方法。面接時の質問意図について。 就職活動のルールの再確認。各種証明書申込みについて 第10回 模擬面接体験 第11回 面接対策の理解、内定後の流れについて 第12回 就職活動のマナー、敬語及び誤表記しやすい漢字について 第13回 内定後の書類提出について 第14回 内定後研修について 第15回 就業後の心構えについて				
成績評価方法	受講状況（出席率）及び態度及び提出物（自己PR・履歴書）				
テキスト	必要に応じプリント配布				
持ち物	履歴書、ペン字用ペン、印鑑、辞書（電子可）筆記用具				
履修上の 注意事項	授業態度に注意する。欠席はしないこと。14・15 回目は、1 月に実施します。				

科目名	障がい者福祉論	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	橘 文也	開講 時期	3 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的		障がい（身体・知的・精神・発達）のある方達に対する我が国における福祉法制度・施策等を学び、福祉支援を提供する側にとって必要とされる支援スタッフの資質とは何かを知り、現場での即戦力となるようその力を養うことを目的とする			
授業の概要		福祉の援助を必要とする障がいのある方たちの具体的なニーズは何か、その受け皿となる援助制度の仕組み、事業の種類とその内容を学習し、障がい当事者の人権擁護に務め、基本的人権を尊重する姿勢を持つ事が出来るよう、障がい当事者の意見を直接聞く機会を設定するなどを授業の流れとする ※この科目は、福祉施設で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第1回 講義概要と対象とする障がいの範囲と表記について 第2回 発達障がいについて 障がい種別と支援の方法等 第3回 精神障がいの疾病について 第4回 身体障がいについて 対象となる障がい種別と障がい当事者を招き、バリアフリー等の状況を学ぶ 第5回 知的障がいについて 障がい特性を学習し、障がい当事者を招き交流する。 第6回 障がいの原因について及びダウン症等の支援の在り方 第7回 障害者総合支援法について 指定支援事業種別等 第8回 まとめテスト			
成績評価方法		試験及び出席状況と授業態度等、総合的に評価する			
テキスト		なし			
持ち物		筆記用具			
履修上の 注意事項		授業態度に気を付け、積極的に授業に参加する事			

科目名	日誌指導Ⅲ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	講義
担当教員	伊藤 咲希	開講 時期	3 年前期	必選区分・ 免許・資格	保・幼 選択必修
			全		
レポート期間	随時提示（模擬日誌）		試験期間		
授業の目的	幼稚園実習に向けて、実習日誌の記録方法を学ぶ。 実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について理解を深める。				
授業の概要	幼稚園実習の日誌の書き方について演習を通して学ぶ。 実践記録としての日誌の活用方法について理解を深める。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション 幼稚園と保育所の違いについて・幼稚園の特色について 第2回 週案について 第3回 実習記録の書き方説明と実践① 第4回 実習記録の書き方説明と実践② 第5回 実習記録の書き方説明と実践③ 第6回 一日の反省及び考察の書き方 第7回 本日の実習目標の立て方 第8回 総括反省の書き方・自由記録の使い方 まとめ				
成績評価方法	出席率・提出物（模擬日誌）・授業態度				
テキスト					
持ち物	幼稚園教育実習簿、テキスト、辞書・A4ファイル、定規				
履修上の 注意事項	実習準備科目の為、全出席を望みます。プリント配布や提出物がありますので、 欠席した場合は担当教員まで確認に来ること。				

科目名	保育活動Ⅲ	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	小川 睦美	開講 時期	3 年前期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終回	
授業の目的	幼稚園実習に向けて、それぞれの年齢に合った活動内容について理解を深める。				
授業の概要	実践を通して、各年齢ごとのねらいに基づいた活動内容を学ぶ。 集団遊びなどの一斉活動における指導方法や留意点を学ぶ。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 3歳児に適した活動 第2回 4歳児に適した活動 第3回 5歳児に適した活動 第4回 集団遊び 第5回 じゃんけん遊び、活動の合間を繋ぐ遊び 第6回 新聞を使った遊び（導入、活動、まとめ） 第7回 自己紹介案（作成・発表） 第8回 実技試験				
成績評価方法	出席状況・受講態度・実技試験等、総合的に評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	上靴・ジャージ着用・ポケットファイル（A4サイズ）・ノート又はルーズリーフ・筆記用具				
履修上の 注意事項	ジャージ以外の服装での受講は認めません。髪は束ね、アクセサリーは不可です。積極的な受講態度を評価します。				

科目名	ボランティア（選択）	単位	4	学科	こども未来学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	若松 幹子	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	
			全（週2回）		
レポート期間	授業最終日		試験期間		
授業の目的	福祉施設でのボランティア活動をととして、利用者とのコミュニケーションを図る。 福祉施設の作業内容を把握し、施設職員の役割を知る。				
授業の概要	毎週、札幌市内の小規模作業所に出向き、利用者と共に作業を行う。または、余暇活動に参加させてもらう。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション 諸注意事項の確認 ボランティア先の選定				
	第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 振り返り 反省点、学んだことなどをレポートにまとめる				
成績評価方法		出席状況 ボランティア日誌の提出状況			
テキスト		特になし			
持ち物		ボランティア日誌、ボランティア先から指定されたもの			
履修上の 注意事項		ボランティア日誌は必ず持参する事。ボランティア終了後はボランティア先より出席確認印をもらい、必要事項を記入し毎回提出すること			

科目名	保育者のマナー	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	菊池 美奈	開講 時期	3 年後期	必選区分・ 免許・資格	
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	社会人として・保育者としての自覚を持ち、相応しい立ち居振る舞いや常識・マナーを身につける。				
授業の概要	演習を通して、保育・教育現場での保育者としての立場を理解し、場面に合ったマナーの大切さを学ぶ。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション（授業内容・評価方法など） 保育者とはどうあるべきか？（社会人・保育者とは） 第一印象の大切さ（笑顔・姿勢・歩き方・お辞儀・挨拶） 身だしなみについて（通勤時・園外・保育中） 身だしなみチェック 第2回 園という組織の中でのコミュニケーション・ルール・マナー 言葉遣い・返事・意思疎通を確認する言葉 出勤・外出・遅刻・早退・欠勤・休暇・退勤 第3回 敬語（敬語の種類とはたらき） 自己紹介を考えよう 第4回 電話対応でのマナー（電話のかけ方・受け方・取り次ぎ方） 第5回 来客対応・個人宅訪問のマナー（お客様のご案内・お茶の出し方） 第6回 席次・名刺交換 冠婚葬祭のマナー テーブルマナー 第7回 保護者が求める保育者像とは こんな社会人・保育者になりたい 第8回 素敵な社会人・保育者になる為に 保育者1年目の心得 まとめ				
成績評価方法	出席状況・受講態度・提出物等、総合的に評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	ポケットファイル（A4サイズ、ポケット数の多いもの）・筆記用具				
履修上の 注意事項	社会人・保育者になるという自覚をしっかりと持ち、積極的な態度で受講すること				

科目名	保育所保育指針	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	講義
担当教員	加福 圭子	開講 時期	3 年後期	必選区分・ 免許・資格	
			前半		
レポート期間		試験期間			
授業の目的		保育所保育指針に沿って現在の保育所・保育士の役割を学ぶ。			
授業の概要		・ 保育所保育指針を基に、現在の保育現状を把握する。 ・ 保育所保育指針を深く学習する事を通し、専門的知識を高める。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第 1 回 授業内容、評価、持ち物等について 保育所保育指針について 第 2 回 第 1 章 総則 第 3 回 第 2 章 保育の内容 第 4 回 第 3 章 健康及び安全 第 5 回 第 4 章 子育て支援 第 6 回 第 5 章 職員の資質向上 第 7 回 認定こども園について 第 8 回 振り返り・まとめ、試験			
成績評価方法		出席率・授業態度・試験等を総合的に評価する			
テキスト		保育所保育指針			
持ち物		保育所保育指針・A4 ファイル（袋型もしくは二つ穴）			
履修上の 注意事項		・ 評価に関しては特に授業態度を重視する。 ・ プリントを配布しますので、必ず A4 ファイルを用意すること。			

科目名	あそび研究Ⅲ	単位	6	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	虎谷 美香	開講 時期	3年後期	必選区分・ 資格・免許	
			後半		
レポート期間		試験期間			
授業の目的		1年次より3年次までの3年間で、段階を経ながら経験を繰り返し、保育現場においての実践力を養う。また、専門知識・技術を実践の場で活かす力を培う。子ども理解を深め、広い視野を持って子どもを中心とした関わりをし、状況に合わせた行動をすることの出来る「即戦力」となる保育のプロフェッショナルを育てる。 ・保育者としての資質・能力・技術等の習得度の確認 ・今後の課題の明確化と就労準備			
授業の概要		・保育者としての意識を持ち、保育内容の立案を行い、集団及び一人ひとりに適した関わりを実践する。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		① 事前学習 ・「あそび研究Ⅲ」実施の意義 ・「あそび研究ⅠⅡ」の振り返り ② 準備 ・これまでの総合的な学び・経験や反省点等を活かした保育の立案・シュミレーション ・環境整備 ③ 「ほせんひろば」実施 ④ 振り返り・まとめ ・感想・反省・自己評価 ・自己課題の明確化・就労準備			
成績評価方法		出席状況・受講態度・提出物等を総合的に評価する			
テキスト		プリント配布			
持ち物		道具セット一式、筆記用具（その他は、随時お知らせします）			
履修上の 注意事項		・保育者を目指す者としての自覚を持ち、積極的に参加すること。 ・相応しい服装・身だしなみ・立ち居振る舞い（明るい笑顔・挨拶・言葉遣い）の徹底をすること。 ・他人任せにせず、一人ひとりが役割を理解し、責任を持って行動すること。			

科目名	ピアノⅥ	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的		保育の現場で必要な実践的音楽技術や豊かな表現で演奏する知識を広める、能力をさらに高める。ソナチネ以上を目指す。			
授業の概要		演奏、理解向上のために改めて基礎を確認する。譜読力を高め、要求されている内容に過不足ない価値観を身につける。			
授業の計画		練習時には常に以下の点について心がけ、よりよくレッスンを受講する。 1、自らのレベルについての確認。 読譜力に問題のあるときは必ず指導者に質問などして、確認をとる。 思いこみや、簡単に考えていた事には間違いがある可能性が高い 2、客観的な確認を基本とし、指導者から要求されている表現に近づいているか気づかう。ひとりよがりな態度に気をつける。 表現には色々な形がある、指導者の意図と自らのイメージを話し合ってみる。リズム、イントネーション、フレーズは単に記号ではなく、意図する意味を含んでいるので確認する。 3、基礎力を向上させるため、楽語や表現記号の下調べをしておく。 表現に必要で重要な事が楽語が書かれている、表面的な意味が理解できたら、より具体的な感覚で、表現に利用する。 4、単なる記憶ではなく理解、発展、発想の段階を目指す。 楽曲が表現するもの、作曲者の意図を感じる			
成績評価方法		出席状況及び受講態度・実技試験			
テキスト		各自のレベルの楽譜			
持ち物		教本・ピアノカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ			
履修上の 注意事項		指導者からの指摘に耳を傾け、練習すべき点をしっかり確認、独りよがりにならないよう注意した練習の上、新たなアドバイスを受ける。			

科目名	こどものうたⅣ	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	各担当講師	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	こどものうたⅠ・Ⅱ・Ⅲを基礎に、より高度な表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリーを拡大する。				
授業の概要	客観性をもった練習。価値観を共有しニーズとされるレベルや自分のレベルを知り、理想に近づく努力をする。				
授業の計画	※歌唱について 1. 音符の確認～音程、長さ、ブレスを確実にするための作業を毎回確認必須。理解できたと思っても実際には音程が不安定になる、歌ううちに音程や長さを歌い易く変えてしまうケースがよくあるので注意を払う。 ピアノでメロディーのサポートをして歌だけを歌うなどの練習を重ねる。 2. 歌詞は声を出して読む～読むことによって、内容の確認、イントネーション、アクセント、ニュアンスを把握し演奏に繋げる。 ※内容とは、 ①使われている言葉の方向性等を知る～説明、会話、対話、感情表現、物語、指示、躰などの把握をする。 ②季節感、情緒感、礼儀、その楽曲が使われる場面の想像をする。 ※ピアノ伴奏について、 1. ソロ演奏と伴奏の違いの理解。 2. 伴奏に使われている和音の種類について確認する。 3. 実践では大人が対象ではないので、ブレスや口腔の発達から考慮し様々なテンポ設定をして演奏できる事。 ※ピアノ伴奏つきでの歌唱 1. 自らが歌っている歌を聞きながら、伴奏をする。 伴奏が主体的になって、歌をあわせる練習にはならないように気使う。 2. ピアノのみ、歌のみ、伴奏つき歌唱を繰り返して練習する。				
成績評価方法	出席状況及び受講態度・実技試験				
テキスト	こどものうた200・続こどものうた200				
持ち物	教本・こどものうたカード・筆記用具・上靴・ヘッドフォン・クリップ				
履修上の 注意事項	練習すべき目的を見失わないよう注意して練習をしておくこと。				

科目名	オペレッタ（選択）	単位	4	学科	こども未来学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	小川 睦美	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	
			全（週2回）		
レポート期間		試験期間		発表会当日	
授業の目的		実践を通して自らの感性を磨き、イメージ豊かで多様な表現活動を目指す。			
授業の概要		卒業発表に向け、これまでの授業で学んだ実践活動（ピアノ、歌、踊り、演技、製作など）を活かし、それぞれが工夫した表現を考察し、楽しんで表現し、協力しながら作品を作り上げていく。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。			
授業の計画		第1回 幼児の表現活動について（遊戯 歌 劇 舞踊劇等） オペレッタについて（歌 音楽 劇のバランス 小道具など） ビデオ鑑賞①（作品をみての感想） 第2回 作品が完成するまでの過程 音楽の効果など知る ビデオ鑑賞② 第3回 表現遊び 第4回 卒業発表に向け、作品を決める（配役・役割り分担） 第5回 台本、うた、音楽（効果音）づくり 第6回 台本、うた、音楽（効果音）づくり 第7回 台本読み合わせ、台本に合わせて練習 第8回 練習 大道具づくり 第9回 練習 大道具づくり 第10回 練習 大道具づくり 第11回 練習 衣装 大道具完成 第12回 練習 衣装 小道具づくり 第13回 練習 衣装 小道具づくり 第14回 練習 衣装 小道具づくり 手直し 第15回 練習 衣装をつけて練習 手直し 第16回 練習			
成績評価方法		出席状況、授業態度			
テキスト		なし			
持ち物		筆記用具、上靴着用			
履修上の 注意事項		協調性を持ち、一人ひとりが意欲的に参加する。			

科目名	手話（選択）	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	若浜 ひろ子	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	保・選択必修
			前半		
レポート期間		試験期間		授業最終日	
授業の目的		聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学ぶ。また聴覚障害についても学び、手話との関連を理解する。聴覚障害についての基礎知識と自己紹介や日常生活など身近な話題に関する手話表現を学び、コミュニケーション意欲を高める。			
授業の概要		手話の成り立ちや聴覚障害者の生活について学習し、手話言語について知識を深める。会話例文を用いて基本的な手話表現技術を身につけることによって、手話によるコミュニケーション方法を学ぶ。			
授業の計画		第1回 授業の説明と注意事項 理論「聴覚障害の基礎知識」 実技「身振りで伝える」イメージ力をつける基礎知識 第2回 理論「手話の基礎知識」 挨拶、自己紹介、家族の手話表現 指文字で伝える 第3回 DVD鑑賞「わたしの大切な家族」・レポート 理論「福祉制度について」 第4回 家族、数の手話表現 第5回 理論「聴覚障害者の生活について」 趣味の手話表現、2人組で会話表現 時に関する手話表現Ⅰ 第6回 時に関する手話表現Ⅱ 会話練習Ⅰ（保育園で場面） 第7回 会話練習Ⅱ（保育園で場面） 読み取りの事前練習 第8回 実技試験（読み取り・小論文）			
成績評価方法		実技試験及び小論文・出席状況・授業態度などを総合的に評価する。			
テキスト		「さっぽろの手話」公益社団法人札幌聴覚障害者協会発行			
持ち物		テキスト、筆記用具			
履修上の 注意事項		授業に積極的に参加し、互いに協力しあってコミュニケーション力を高める。			

科目名	エプロンシアター (選択)	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	小枝 玲子	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	現場で利用できるエプロンシアターを作る				
授業の概要	一人一枚エプロンシアターを作る 次年度の幼稚園実習に備える				
授業の計画	第1回 エプロンシアター 概要説明 第2回 エプロンシアター 作る物の決定・型紙切り 第3回 エプロンシアター 型紙切り、生地色決定、製作 第4回 エプロンシアター製作 第5回 エプロンシアター製作 第6回 エプロンシアター製作 第7回 エプロンシアター製作 第8回 エプロンシアター製作 第9回 エプロンシアター製作 第10回 途中経過確認（マスコットの提出） 第11回 エプロンシアター製作 第12回 エプロンシアター製作 第13回 エプロンシアター製作 第14回 エプロンシアター製作 エプロンシアターの演じ方 第15回 エプロンシアター完成（エプロンの提出） 第16回 発表、提出				
成績評価方法	提出物・出席日数・授業態度				
テキスト	プリント配布				
持ち物	裁縫道具・ハサミ（紙用・布用）・筆記用具・木工用ボンド・セロハンテープ				
履修上の 注意事項	提出期限厳守				

科目名	折紙Ⅲ（選択）	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	鈴木 一美	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間		試験期間			
授業の目的		折紙Ⅰ、Ⅱで習得した技術を基に卒業製作に取り組む			
授業の概要		・平面、立体、壁面、自分の作る作品がどれに合うか考えて計画する ・幼稚園・保育園などに飾ってもらえるような作品にする			
授業の計画		第1回 } 第2回 } 卒業製作のグループ作り（2人又は4人） 第3回 } どのような作品を作るか決める 第4回 } 製作に必要なものを決める 第5回 製作授業 第6回 製作授業 第7回 製作授業 第8回 製作授業 第9回 製作授業 第10回 製作授業 第11回 製作授業 第12回 製作授業 第13回 製作授業 第14回 普通授業 第15回 普通授業 第16回 普通授業 ※卒業製作は2月に完成させる ※選択人数により、折紙Ⅰ、Ⅱの時の折り図作成授業に変更有			
成績評価方法		製作中の態度、作品の仕上がり			
テキスト		なし			
持ち物		必要な道具（カッター、ハサミ、ボンド、その他必要なもの）			
履修上の 注意事項		・必ず全員が作品を作ること ・勝手な行動をとらない			

科目名	パソコン（選択）	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	新田 洋子	開講 時期	3 年後期 前半	必選区分・ 免許・資格	
レポート期間			試験期間		
授業の目的	パソコンの普及により、文書作成や表計算、写真の加工などの処理が効率よくできるようになりました。この授業では、さらに効率よく操作するためにキーボードを見ずに入力できるよう練習し、実務に役立つ操作方法を実習します。				
授業の概要	Microsoft の Word・Excel、Windows フォト・ペイントを使用して、保護者の方へのおたよりや行動計画表、会計書類、運動会のアルバムなどを作成します。				
授業の計画	第 1 回 ガイダンス キー操作と IME の操作 Word の文字書式と段落書式 通信文書の作成 1 第 2 回 入力練習（以降継続） 作表 通信文書の作成 2 第 3 回 ワードアート 画像の挿入と文字配置の変更 ページレイアウトの変更 運動会のプログラム作成 第 4 回 グリッド線と図形描画 地図の作成 第 5 回 Excel の画面構成 並べ替えと抽出 セルの入力・編集・削除 列幅・行高 セルの書式設定 行動計画表の作成 第 6 回 四則演算 給与明細書の作成 使用頻度の高い関数(SUM/AVERAGE/MAX/MIN) 第 7 回 提出課題の訂正 便利な関数(PHONETIC/NUMBERSTRING) 差込印刷 Windows フォトとペイントで写真の加工 第 8 回 カレンダーの作成				
成績評価方法	出席率（5 0 %）・提出物（4 0 %）・授業態度（1 0 %）				
テキスト	講師配布テキスト ※紛失した場合は再配布しない				
持ち物	筆記用具				
履修上の 注意事項	パソコン実習室での飲食並びに飲食物の持ち込みは厳禁。化粧品の使用も厳禁。発覚した場合、担任の先生に報告のうえ欠席扱いとする。他人のデータを借用して提出した場合は不可。進度により内容の順序を変更する場合がある。				

科目名	人形劇（選択）	単位	4	学科	こども未来学科
		時間	60	授業形態	演習
担当教員	加福 圭子 鈴木 楓	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	
			全（週2回）		
レポート期間			試験期間	発表会当日	
授業の目的	人形劇の成り立ちや作成過程への理解を深め、作品や人形製作の基礎を身に付け、実践し、人形劇を発表するまでの過程を学ぶ。				
授業の概要	これまでの授業で学んだ実践活動や製作活動を活かし、仲間と協力をして台本・人形・小道具を作り上げ、演じるまでの一連の流れを体験し、人形劇作品を完成させる。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1週 授業説明、人形劇の理解（成り立ち、人形の種類） 人形劇完成までの流れ（台本→人形・小道具製作→演出→発表） ビデオ鑑賞からの学び（NHK 人形劇・卒業生の人形劇発表映像） 第2週 グループ決定、グループ活動（作品・役割り分担の話し合い） シナリオの構成について（起用転結の効果的な構成の仕方） 第3週 台本作成（話の大まかな流れの話し合い）・人形土台の作成 第4週 台本作成（セリフ・細かな流れの決定の話し合い）・人形の形成 第5週 人形作成（土台やすりがけ）・衣装の作成（デザイン・型紙おこし） 第6週 人形作成（新聞紙と半紙貼り）・衣装の作成（布裁断・縫製） 第7週 人形作成（色塗り・表情入れ）・衣装の作成（布裁断・縫製） 第8週 人形作成（ニス塗り・頭髮付け）・背景デザイン（下書き） 第9週 人形作成（衣装の取り付け・完成）・背景デザイン（色塗り） 第10週 小道具作成・背景デザイン（色塗り） 第11週 小道具作成・ 第12週 台本読み合わせ（ピアノ・効果音・照明の脚色） 第13週 演技指導（人形の動かし方、舞台の使用方法の指導と実践） 第14週 演技練習①（舞台上で動かし、全体の流れを見ながら演技の修正や補足を行う） 第15週 演技練習②（舞台上で動かし、全体の流れを見ながら演技の修正や補足を行う） 第16週 演技練習③（作品完成） ※毎回グループで話し合いをし、作業を分担しながら作成していく				
成績評価方法	出席状況・授業態度・発表内容を総合的に評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	随時提示				
履修上の 注意事項	協調性を持ち、一人ひとりが作品完成に向けて意欲的に参加すること				

科目名	保育の英会話（選択）	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	田中 純一	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	
			前半		
レポート期間			試験期間	授業最終日	
授業の目的	コミュニケーション・ツールとしての英語を念頭に、演習・ゲーム・歌などを通じて日常的な英語を身に付け、実践的なコミュニケーション能力を育成する。				
授業の概要	英語の挨拶・わらべ歌・ゲームで口慣らしをします。その後プリントを配布、要点が解説され、演習問題に各自が取り組み発表し、それを添削し正解が解説されます。さらに会話形式で質問・応答練習ならびに音声教材を利用したリスニング練習を行います。				
授業の計画	第1回 登園時・降園時の会話 第2回 ありがとうの表現 第3回 排泄 第4回 食事 第5回 褒め言葉 第6回 注意する言葉 第7回 保健子供の状態を表す表現 第8回 インタビューテスト				
成績評価方法	面接試験（インタビューテスト）・授業態度・出席状況で評価する				
テキスト	プリント配布				
持ち物	筆記用具・英和辞典または電子辞書を持参のこと				
履修上の 注意事項	授業中の携帯電話辞書使用は禁止とする				

科目名	保育者の心得	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	演習
担当教員	伊藤 咲希	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	
			前半		
レポート期間	随意提示		試験期間		
授業の目的	幼児保育、教育の専門家としての自覚を持つ こどもの視野に立った姿勢について学ぶ 教育組織の中のひとりとしての役割について理解する				
授業の概要	幼児保育・教育現場での専門職としての役割について理解を深める こどもや保護者、職員との関わりや社会人としてのマナーについて、演習を通して学ぶ ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の計画	第1回 オリエンテーション・「保護者に向けての自己紹介の仕方」① 第2回 「年中行事についてⅠ」 第3回 「園の行事についてⅠ」 第4回 「家庭訪問について」 第5回 「おたよりの書き方」 第6回 「園の怪我や事故の対応や予防について」 第7回 「担任業務について」 第8回 「新年度準備について」				
成績評価方法	出席状況及び提出物、小テスト、授業最終日に試験				
テキスト	授業毎にプリント配布				
持ち物	授業配布プリント				
履修上の 注意事項	就業後対応科目の為、欠席しない事。 演習については、積極的態度で参加すること。				

科目名	幼児の音楽Ⅱ（選択）	単位	2	学科	こども未来学科
		時間	30	授業形態	演習
担当教員	村田 昌史	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	
			全		
レポート期間			試験期間	授業13～16回目	
授業の目的	器楽合奏、歌など通じて幅広く幼児音楽を習得				
授業の概要	幼児音楽で使用されるとする楽器、歌、それらの指導法など現場対応に応じた授業				
授業の計画	第1回	ミュージックベルの説明			
	第2回	ミュージックベルの音だし			
	第3回	ミュージックベルの合奏練習			
	第4回	ミュージックベルの合奏と指導法			
	第5回	グループの発表			
	第6回	年少～年長対象の器楽合奏の準備 (使用楽器、曲名、グループ内の楽器分担など)			
	第7回	年少～年長対象の器楽合奏の準備 (使用楽器、曲名、グループ内の楽器分担など)			
	第8回	年少～年長対象の器楽合奏の準備 (使用楽器、曲名、グループ内の楽器分担など)			
	第9回	各グループごとの練習開始（幼児器楽合奏指導法など含む）			
	第10回	各グループごとの練習開始（幼児器楽合奏指導法など含む）			
	第11回	各グループごとの練習開始（幼児器楽合奏指導法など含む）			
	第12回	各グループごとの練習開始（幼児器楽合奏指導法など含む）			
	第13回	各グループごとの練習開始（幼児器楽合奏指導法など含む）			
	第14回	各グループごとの練習開始（幼児器楽合奏指導法など含む）			
	第15回	各グループ発表			
	第16回	各グループ発表			
	成績評価方法	実技評価、授業態度、出席率			
テキスト	こどものうた200、続こどものうた200				
持ち物	筆記用具(ホチキス・定規)、こどものうた200、続こどものうた200				
履修上の 注意事項	授業態度に注意する事				

科目名	幼稚園教育要領	単位	1	学科	こども未来学科
		時間	1 5	授業形態	講義
担当教員	伊藤 咲希	開講 時期	3年後期	必選区分・ 免許・資格	
			後半		
レポート期間			試験期間		
授業の目的	・新・幼稚園教育要領に沿った、幼稚園や教師の役割について学びを深める。				
授業の概要	・平成30年度改正の幼稚園教育要領の内容について学び、幼稚園での生活・保育・教育の取り組みを知る。 ※この科目は、保育現場で実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
授業の概要	第1回 幼稚園教育要領とは…憲法・教育基本法・学校教育法との関係 第2回 第1章 総則 第3回 第2章<五領域>健康 第4回 第2章<五領域>健康～食育 第5回 第2章<五領域>人間関係 第6回 第2章<五領域>人間関係～規範意識の芽生え 第7回 第2章<五領域>環境・表現 第8回 第2章<五領域>言葉 まとめ				
成績評価方法	出席状況・小テスト・提出物・受講態度等を総合的に評価				
テキスト	「幼稚園教育要領解説」				
持ち物	テキスト 初回に担当講師から説明				
履修上の 注意事項	配布プリントや提出物があるので、欠席した場合はその都度、必ず担当教員まで確認に来ること				

